

(社) 日本原子力学会 標準委員会  
第 31 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2008 年 3 月 13 日 (木) 13:30~15:20
2. 場所 日本原燃(株) 東京事務所 第 1 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 田中 (部会長), 駒田 (副部会長), 藤原 (幹事), 阿部 (昌), 井口, 猪俣,  
内山, 金木, 川上(泰), 高橋, 仲神, 西村, 深澤, 前川, 松尾 (15 名)  
(代理出席委員) 阪西 (荒木代理), 中久木 (有江代理), 加藤 (川上 (博) 代理),  
稲継 (堀川代理) (4 名)  
(欠席委員) 有富, 小佐古, 坂下, 長崎, 中島, 新堀, 濱田, 森山 (8 名)  
(常時参加者) 飯村 (1 名)  
(欠席常時参加者) 池澤, 宮川 (2 名)  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
配付資料  
FTC31-1 第 30 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)  
FTC31-2 人事について (専門部会)  
FTC31-3 人事について (分科会)  
FTC31-4-1 「余裕深度処分の安全評価手法(案)」 書面投票の結果について  
FTC31-4-2-1 「余裕深度処分の安全評価手法(案)」 コメント対応について  
(見解書、コメント処理表)  
FTC31-4-2-2 日本原子力学会標準「余裕深度処分の安全評価手法」(案)  
FTC31-5 日本原子力学会標準「収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象  
としたバッチ法の基本手順:2002」の改定に関する検討結果について (報告案)  
FTC31-6 原子燃料サイクル専門部会における標準案件制定スケジュール (案)  
FTC31-7-1 再処理設備規格/標準の民間標準化について (案)  
FTC31-7-2 技術開発基本スケジュール (深地層処分) (案)  
FTC31-7-3 第二種埋設 (浅地中処分, 余裕深度処分) 関連の標準案件制定ロードマップに  
ついて  
FTC31-8 標準委員会の活動概況  
FTC31-9 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

## 参考資料

- FTC31-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧
- FTC31-参考 2 標準委員会及び専門部会の今後のスケジュール(案)
- FTC31-参考 3 (社)日本原子力学会 標準委員会 組織図 (変更案)

## 5. 議事内容

### (1) 出席者の確認

27名の委員のうち、代理委員を含め19名の出席があり、決議に必要な委員数(18名)を満足している旨が事務局より報告された。

### (2) 前回議事録の確認

前回議事録(FTC31-1)が承認された。

### (3) 人事について

#### a. 専門部会人事(委員継続の承認)

事務局より、FTC310-2に沿って、任期満了の委員5人(田中部会長、駒田副部長、有富委員、川上(泰)委員、小佐古委員)から委員継続の意志が示された旨説明し、決議の結果、それぞれ、全員一致で引き続き委員として選任された。

#### b. 分科会人事(委員退任の報告)

事務局より、FTC31-3に沿って、輸送分科会の二瓶副主査の退任が報告された。

### (4) 余裕深度処分の安全評価手法(案) 書面投票における意見への対応について

事務局より、FTC31-4に沿って、書面投票の結果、本標準(案)が部会で承認されたこと及び保留意見2件を含めて意見が多数あったことが紹介された。これらの意見に対する見解と標準の修正(案)について、余裕深度処分安全評価分科会の山本幹事より説明が行われた。

審議の結果、修正(案)についてはすべて編集上の修正と判断され、決議の結果、修正内容は妥当であるものとして承認された。

## 主な質疑等：

- ・ 推奨値の考え方は分かった。核種固有パラメータなどについては推奨値が適切と考えるが、推奨値の欄には地点固有に決めるもの、やむをえず保守的に決めたものもある。推奨ではなく要求(地点固有に決めるもの)又は参考(やむを得ず保守的にきめたもの)とすべきものもあるのではないか。
  - 地点固有に決めるものについては具体的な値ではなく、値を決めるにあたっての考え方を示している。附属書1(規定)の最初に、パラメータ値は一般的なものを示

しているので、最新の知見、サイト固有の測定値・評価値など、より適切なものを用いても良いと書いてあり、参考と明示しなくても推奨値以外の値を使用できる。

→ 推奨という言葉は、より適切なパラメータを選ぶことが可能であるという意味も含めて使っている。何か手がかりがないと使いにくいので、デフォルト値としての推奨値を載せているもの。

・保留意見への見解の中で、被ばく経路は処分システムの状態と独立といているが、処分システムの状態によっては、被ばく経路も変わるのではないか。

→ ここでいう被ばく経路とは、生活圏の中での被ばく経路であるが、処分システムが劣化して生活圏の中に入ってくれば、被ばく経路として考えている。独立にこだわるものではないが、分けて考える方が分かりやすい。

→ 処分システムの状態が変わっても、被ばく経路としてはソースタームが変わるだけ。文章としては少し直すこととする。

・対応方針（案）の No.3 指摘箇所の表 4.2-1 は 4.2-2 の誤り。

→ 修正する。

(5) 「収着分配係数の測定方法―浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順：2002」の5年毎改定の要否について

事務局より、5年毎の改定を不要とするための手続きについて、標準委員会審議要領の説明を行い、さらに FTC31-5 の内容について説明を行った。その後、書面投票への移行について決議を行い、承認された。

(6) 原子燃料サイクル専門部会における標準化の計画とロードマップについて

事務局より、FTC31-6 に沿って、至近3年の標準案件制定スケジュールについて説明後、西村委員より、FTC31-6 に沿って再処理施設における標準制定ニーズの説明が行われた。さらに、原子力発電環境整備機構吉澤氏より深地層処分に係わる標準制定ニーズの見通しが説明され、西村委員からは第二種埋設関連の標準制定スケジュールについて説明が行われた。審議の結果、次回標準委員会に、FTC31-6 を中心に中間報告を行うこととなった。

主な質疑応答：

・再処理の案件は、どこに使うのか、既存の炉の規格基準類と何が違うのか、何を議論すべきかを明確にする必要がある。例えば、燃焼度クレジットは燃料プールに適用したいのか。

→ プールに適用したいと考えている。また、例えば放出放射性物質の測定は、再処理特有のものは、基準化されていない。今回挙げた6件は、社内での議論の結果、制定されれば有用なものと考えているが、内容についてはもう少し詰める必要がある。

・今やっている方法と、今後制定される標準との関係はどのように考えているのか。

→ 測定については、加速器などを使えば検出限界があがり、このようなデータで騒がれるとこまる。今やっている方法でも問題が無いことを確認したい。

- ・航空機落下は、既に裁判も行われるなど、今から作っても使うところはないのでは。
  - 新しい航空機が配備される度に審査があるので、今後も必要。
  - 再処理の航空機落下は、確率評価ではないのではないか。
  - 確認する。
- ・今回の資料は、案件と必要時期について洗い出したものだが、標準委員会へはどのように報告するか。
  - FTC31-6に加えて、各分野について1件1葉で報告すればよい。

#### (7) 標準委員会の活動概況について (FTC31-8)

事務局より、サイクル専門部会で作成した標準2件が、3月7日に発行された旨報告が行われた。

#### (8) 分科会活動状況について (FTC31-9)

事務局より、FTC31-9に沿って、前回専門部会以降の分科会活動状況について報告を行った。

主な質疑応答：

- ・2月にパブコメが行われた、「核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の第二種廃棄物埋設の事業に関する規則」では、余裕深度処分の定義として、「地表から深さ五十メートル以上の地下に～」との表現が明記されている。これまでの標準と表現が変わることになるが、LLW 廃棄体製作・管理分科会で作成中の標準での記載はどうすれば良いか。また、告示の改正案（核燃料物質等の埋設に関する措置等に係る技術的細目を定める告示の一部改正）では、廃棄体の要件に有害な空げきが無いこととの表現が加わった。こちらについても、分科会で検討中。
  - 余裕深度処分の概念は変わっていない。発行時期によって用語の定義が変わるのは問題はない。法令に従った表現とすれば良い。
  - 「有害な空げき」は、昔海洋処分をしようとしていた時代に廃棄体が水圧でつぶれないように入れた要件。当時の基準は20～30%。現在ではあまり気にする必要はないのではないか。

#### 6. 今後の予定

次回専門部会日程は、後日調整することとなった。

以 上